

令和2年度シラバス (公民)

学番41 新潟県立見附高等学校

教科(科目)	公民 (政治経済)	単位数	2単位	学年	3学年 (必修)
使用教科書	最新 政治・経済 新訂版 (実教出版)				
副教材等	最新図説 政経 (浜島書店)				

1 学習目標

1. 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深化させる。
2. 現代の政治、経済、国際関係に関する興味・関心を引き出し、その客観的な理解をはかる。
3. 現代の政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養わせる。

2 指導の重点

- ・社会人として必要となる一般教養がしっかりと身につくことに重点を置いた授業を行う。
- ・現状や問題点を論理的に思考する「公民的思考力」が身につくことに重点を置いた授業を行う。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	“第1編 現代の政治 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原理解 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界のおもな政治制度”	教科書 副教材	◎国内政治や国際政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身につけさせる。 ・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発展について理解させる。	6	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
5	第2章 日本国憲法と基本的人権 1. 日本国憲法の成立 2. 日本国憲法の基本原理解 3. 自由に生きる権利(1) 4. 自由に生きる権利(2) 5. 平等に生きる権利 6. 社会権と参政権・請求権 7. 新しい人権 8. 人権の広がり と公共の福祉	教科書 副教材	・日本国憲法の成立過程をふまえ、憲法の三大原理を把握させる。 ・日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	8	
6	第3章 日本の政治制度と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 内閣と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加		・国会、内閣、裁判所さらには地方自治など日本の統治機構に関する理解を深め、またその課題について考察させる。 ・日本の政党政治や選挙制度の特質を把握させるとともに、望ましい政治や参政のあり方について考察させる。	10	
7	第4章 現代の国際政治 1. 国際社会と国際法 2. 国際社会の変化 3. 国際連合と国際協力 4. 第二次世界大戦後の国際政治 5. 冷戦終結後の国際政治 6. 軍拡競争から軍縮へ 第2編 現代の経済	教科書 副教材	・国際社会や国際法に関する基本的な理解を深め、国連をはじめ国際機関の役割について考えさせる。 ・戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争や軍縮問題、難民問題などを理解させる。	10	

9	第1章 現代の経済社会 1. 経済社会の変容 2. 経済主体と市場の働き 3. 企業の役割 4. 国民所得 5. 経済成長と国民の福祉 6. 金融の役割 7. 日本銀行の役割 8. 財政の役割と租税 9. 日本の財政の課題	教科書 副教材	◎基本的な経済の仕組みを理解させるとともに、日本経済の現状やその課題、国際経済の動向などを考察させる。 ・資本主義や社会主義という経済体制の特質を理解させ、その変容を概観する。 ・市場のはたらきや国民所得、景気変動など経済の基本的事柄に対する理解を深化させる。 ・バブル崩壊と金融、財政の課題などを理解させ、租税の意義も考えさせる。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
10	第2章 現代の日本経済と福祉の向上 1. 戦後復興から高度経済成長へ 2. 安定成長からバブル経済へ 3. 日本経済の課題	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・バブルとその崩壊後の不況、という現状に至る日本経済の流れを追い、経済成長や景気変動、金融・財政政策という理論的既習事項を現実の歴史の中で具体的に把握させる。 ・公害や労働関係、社会保障といった日本経済が直面する課題について理解し、今後の展望について考察させる。 	16	
11	4. 中小企業と農業 5. 消費者問題 6. 公害防止と環境保全 7. 労働問題と労働者の権利				
12	8. こんにちの労働問題 9. 社会保障の役割				
1	第3章 現代の国際経済 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ		<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みといった国際経済の基本的な事項を理解させる。 ・戦後の国際経済の流れを踏まえ、地域統合や経済摩擦、南北問題など国際経済を取り巻く課題を理解させる。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
2	3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. 国際経済の動向(1) 5. 国際経済の動向(2) 6. 発展途上国の諸問題 7. 経済協力と日本の役割				
3	第3編 現代社会の諸課題				
70時間 (50分授業)					

4 課題・提出物等

夏期休業中に「税の作文」を完成させて提出させる。
その他、必要に応じて指示する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、定期考査・小テスト・日常の課題・休業中の課題・授業中の態度等から総合的に判断して行う。